



Infant Scientist

赤ちゃん・ちびっこ通信

日頃は「赤ちゃん研究員」にご登録、ご協力をいただき、まことにありがとうございます。お忙しい中、調査室までお越しくくださった保護者の皆さま、ご自宅での調査にご協力いただいた皆さま、まことにありがとうございました。今回は残念ながら予定があわなかった方、また調査の対象年齢の都合で残念ながら調査をお願いできなかった方には、たいへん申し訳ありませんでした。「赤ちゃん研究員」の皆さまのお力添えで、九州大学「赤ちゃん・ちびっこ研究員」には、3月現在で1051名の方（ご卒業された方も加えるとこれまで2494名の方）にご登録・ご協力を頂いています。調査を通して得た発見や貴重な情報を、学会で発表したり、論文や文章にまとめたりして、時間はかかりますが「きちんと」お伝えすることをスタッフ一同心がけております。また、その発見や知識が、赤ちゃん・お子さん、保護者の方にご協力いただいたことよって成り立っていることを忘れずに、日々の調査・研究にあたりたいと考えています。

今年度は、下記にご紹介するような調査を行ってまいりました。「赤ちゃん・ちびっこ研究員」に加えて「子ども研究員」（小学校入学～卒業まで）の募集もご案内させていただきます（詳細は「子ども研究員」登録のご継続のお願い（別紙）をご参照ください）。今後ともどうぞよろしくお願いたします！

今年度ご協力いただいた&現在進行中の調査をご紹介します

赤ちゃん研究員

赤ちゃんファンタジー

担当：中分遥・孟憲巍 対象：10～16ヶ月児

子ども向けの絵本やアニメーションでは、「空を飛ぶ象」・「凍らせる力を持つ女王」といった不思議なキャラクターが数多く登場します。こうした不思議なキャラクターは、ヒーロー・ヒロインといった主役になることが多く、しばしば「すごい・強い」といった感想を子ども達は口にします。しかし、こうした感覚は赤ちゃんにも見られるのでしょうか？調査の結果、赤ちゃん（11ヶ月～16ヶ月）は不思議な力（浮遊・瞬間移動）を持つものに対して、「強い・偉い」と考えていることが示されました。この結果は、生後1歳半で、すでに何か特別だと感じ、それを例えば「AさんはBさんよりも強い・偉い」と社会的な関係に結びつけている可能性があることを意味しています。

赤ちゃんは、相対的に高い声が好き？～歌の場合～

担当：富士直斗 対象：8～12ヶ月児

私たちは、赤ちゃんに歌ったり話したりするとき、つつい声が高くなってしまふことがあります。このような少しだけ高い歌を「慣れ親しんだメロディー」や「知っている人の声」でなくても、赤ちゃんは好むのでしょうか。2人のキャラクターに片方ずつ、一方には「少し低い歌」を、他方には「少し高い歌」を歌わせ、直後に2人のキャラクターが同時に表示されている間にお子さまがそれぞれのキャラクターを見ている時間（つまり、どれくらい興味があるか）を比べました。高い歌を歌ったキャラクターと、低い歌を歌ったキャラクターをそれぞれ見る時間（つまり、どれくらい興味があるか）には差がないことがわかりました。今後の調査では、ビデオをお見せする方法を変更するなど、乳児の歌をつかったコミュニケーションについて、さらなる検討をする予定です。

生後1年における自己顔への感受性の発達 — 類似性の観点から —

担当：新田博司 対象：11～13ヶ月児

今回の調査では、生後1歳の赤ちゃんがどの程度正確に自分の顔と他者の顔を弁別できるのかを検討しました。主な調査手続きとして、事前に撮影したお子さんの顔、他のお子さんの顔、そして、その2人の顔を合成した顔、つまり、お子さんに似ている顔を同時に提示しました。その結果、お子さんは自分の顔が顔刺激に含まれる場合、合成顔よりもオリジナルの顔をより長く注視しました。一方で、顔刺激および合成顔に自分の顔が含まれない場合は特定の顔への視覚的な好みは観察されませんでした。本調査の結果から、生後1年にわたる自分の顔への日々の視覚的経験が自分の顔に対する表象の発達に寄与している可能性が示されました。

ちびっこ研究員

「かわいい」の定義

担当：古屋知聖・笹口伶子 対象児：24～36ヶ月

私たちは日常の中でよく「かわいい」という言葉を使います。その対象は人から物まで様々です。これまでの研究から成人が使用する「かわいい」という言葉には大きさや色、表情、幼さなどいくつかの観点においてはある程度の枠組みがあることが分かっています。しかし、幼児を対象とした研究は少なく、幼児の「かわいい」という言葉に対する認識の枠組みは明らかになっていません。そこで本研究では2種類のイラストを提示することで大きさ・色・表情・年齢4つの特徴に注目して幼児の「かわいい」という言葉に対する認識の枠組みを検討しました。調査結果として、表情のカテゴリーにおいて、幼児は「楽しそうな表情・笑顔」を「悲しそうな表情・泣き顔」よりも「かわいい」と思っているという可能性が示唆されました。今後は、使用したイラストや写真のバリエーションを増やすなど、さらなる検討を予定しています。

「たまたま」と「わざと」では、どっちが好き?:距離を用いた検証

担当:土屋勝太 対象:5~6歳児

私たちの生活は選択(「今日はどの洋服を着ようかな…」)の連続であり、ときに、選択がほかの人と同じになることもあります(「あの、自分と同じ洋服だ!」)では、子どもたちは、「ほかの人と同じ選択をする」ということを、どのように受け取るのでしょうか。これまでの研究では、子どもが「同じ選択」を喜ばしく感じることもあれば、一方でそれをうとましいものとして受け取る場合もあることがとわかっています。しかし、なぜ「同じ選択」でも受け止め方が異なるのか、詳しい要因はわかっていません。そこで今回の調査では、相手が「わざと」あるいは「たまたま」同じ選択をする場面を用意し、相手への好ましさやどの程度変化するのか、LEGO人形を用いた「距離」に注目して調べました。その結果、子どもは「相手が好きなほど近い距離をとる」ことや、相手が「自分の選択を知っていたかどうか」を考え、「同じ選択」を解釈することが分かりました。

子ども研究員

幼児期・学童期における因果応報的期待の発達

担当:山手秋穂 対象:5~9歳

私たちはなにか良いことが起こると「日頃の行いがよかったから」と思ったり、悪いことが起こると「“ばち”が当たったのかもしれない」と考えたりすることがあります。このような「因果応報」の考え方は、非常に身近なものであると同時に、昔話などのテーマとなることもあります。では、この「因果応報」の考え方は子どもでもみられるのでしょうか。今回の調査では、主人公の行動の意図やその結果が異なる4つのお話をお子さんに見せて、結末として「ハッピーエンド」と「バッドエンド」のどちらかを選んでいただきました。調査の結果、「悪いことをしたら悪いことが起きる」ことを期待しはじめるのは7歳ごろであることがわかりました。

現在進行中の赤ちゃん・ちびっこ研究(来年度以降報告予定)

- 乳幼児期における間投詞の理解(お話しているのどっち?)(担当:宇土裕亮 対象:2歳~)
- 養育者とのインタラクションを通じた子どもの反応変容とその文化比較研究(担当:増田貴彦(アルバータ大学,カナダ) 対象:小学生及び保護者)
- 赤ちゃん・子どもへの注意傾向に関する比較心理学的研究(担当:川口ゆり(京都大学霊長類研究所) 対象:乳児及び保護者(写真モデルとして))

研究室からのお知らせ

- 2019年度より、赤ちゃんラボ(調査室)が九州大学の九洲地区に移転します。

〒815-0032

福岡県福岡市南区塩原 4-9-1 九州大学 大橋地区レンタルラボ
アドバンスデザインプロジェクト棟 4階共同研究室-2

あたらしい調査室が整いましたら改めてホームページ等でお知らせ申し上げます。

- 2017年度より、小学校に入学されるお子さんのいらっしゃるご家庭には「子ども研究員」登録のご継続のお願い(別紙)を送付しております。引き続きのご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- お引越など登録内容(電話番号・住所など)に変更が生じた場合は、ご連絡いただければ幸いです。また、遠方へのお引越などで登録の解除を希望される場合は、その旨をご一報いただければ大変ありがたいです。こちらで変更の手続きをさせていただきます。

九州大学 人間環境学研究院・教育学部 発達心理学講座

橋彌 和秀(はしや かずひで) 准教授

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

イーストゾーン1号館 E-A306

TEL & FAX (092) 802-5170

Email: babykyushu@yahoo.co.jp HP: <http://www.babykyushu.org>

